

# 非国民の精神

フォークシンガー 加川良氏

# 戦争行くな 逃げなさい



「歌い手は歌い手。政治的な発言はするべきじゃないと思ってます」

待ち合わせた東京都世田谷区下北沢のカフェで、歌手・加川良は、そう話した。底抜けの笑顔だが、決然とした口調で、自分への戒めは固い。優しい関西なまりの抑揚でわずかに囁らしたのが、こんな言葉だった。

「ただし、あの歌は死ぬまで歌わなきゃと思ってます。若いころはたのしやうに、面白い言葉を使っていたけど、しかし、いつまでも無責任でいられる年でもないですから」

あの歌とは加川が作詞作曲したデビュー作「教訓曲」という歌である。埼玉県川口市にある「Roots」という名のライブハウス。六十人も入ればいっぱいという会場が、クリスマスライブを翌日に控えたその晩は至極が埋まる満員だった。舞台上に加川が登場すると、

「良さん」  
と会場から野太いかけ声が飛んだ。ギターをかき鳴らし、張りのある声を体奥から絞り出して、加川は歌う。一曲目が終わると短い口上があった。私、迷った。シャーンとギターが鳴って「教訓曲」は始まり、

## 「教訓曲」死ぬまで歌う

開催された当時としては白う歌詞から「シケ世代の旗手」などと呼ばれた。

「最大の野外コンサート。全日本フォークシンガポリー」だった。約八千の聴衆を前にした屋外ステージに、長髪とジーンズ姿の加川は、ギター一本のみで歌を引っ掛けて「飛びっ取りで登場。喝采をもらった。コンサートの一カ月半前、六月十四日、三万五千の群衆が東京の青山通りをデモ行進し、過激派の火炎ビン、投石のために警官、

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

## 私たちの

# 「美しい国へ」

加川良の歌を人前で初めて歌ったのは一九七〇年八月八日。岐阜・中津川で

加川良の歌を人前で初めて歌ったのは一九七〇年八月八日。岐阜・中津川で



三十三人、一般人八人が自備した。当時の首相は安倍晋三首相の大校に於いた。石とまろの中、高石とまろ、岡村謙三少佐、藤のフォーク歌手は、ともに戦おうと「反戦」のメッセージを歌った。東京・新宿駅西口の地下道をフオークゲリウと呼びました。若者たちが埋められた。だが「教訓曲」は少し違った。戦争前に「逃げなさい」というのが、当時の心境を加川が振り返る。「こぶしを振り上げて叫ぶ」といのが好きではなかった。じゃあ、なぜ、あの歌か、という、誰も歌ったことがない日本語を探しをやった結果でた「グループ・サンワンのポーカー」だった。学生時代は、ピートルズのコピーに夢中で、日本語の歌が少なかった。ところが、音楽出版に社員として入社。CM用の音を作るために所属アーティストの曲をヘッドホンで聴くのが仕事になった。

# こちら特報部

## 教訓 I

命はひとつ 人生は一回  
だから 命を すてない  
ように 命を あわてると つい フラ  
フラと  
御国のためなのと いわ  
れるとネ

青くなって しりこみな  
さい けなさい くれなさい

御国はおれ達 死んだと  
て  
ずっと後まで 残ります  
ヨネ  
失礼しましたて 終わる  
だけ  
命の スペアは ありま  
せんヨ

命をすてて 男になれと  
言われたときには ふる  
えましょヨネ  
そうよ 私しよ 女で結  
構  
男のくさったので かま  
いませんよ

死んで神様と 言われる  
よりも  
生きてバカだと 言われ  
ましようヨネ  
きれいなこと ならられた  
時も  
この命を すてないよう  
にネ

(歌謡の一部は現在、ラ  
イブで歌っている内容に  
よる)

観客は圧倒的に、四十  
代の男女が多い。  
例えは東京都葛飾区住  
の女性、通称「葛飾ちゃん」  
（一年十歳）は昨年  
二十五男のコンサーツ会  
場を盛り、自己記録を更新  
した。

「ライヴ」ネットを見て  
いて、青春時代にファンだ  
った加川さんが、赤歌歌っ  
つたところを知ったのね  
来てみたら、この若い  
雰囲気はまさしくしまっ  
て、もう八年にはなるかな  
と。吉い歌うのは、そう  
もあるが、加川自良、一歳  
近、この歌がやうや面白  
くなってきた」と感嘆から  
でもある。

# 政治なんか 分かりません

「日本語って面白くない  
と見えて見まわって、日本語  
で歌うフォークソングの作  
詞作曲を始めた。そのころ  
地下通で売っていたミニレ  
ミ誌をパラパラと立ち読み  
した。ふと目にしたのが、  
犯罪文学者・北野が  
書いた短小説だった。  
「どんたをいっしょ」  
をいわれても、戦争にんか  
かいやいけな。逃げ  
ない、命を大切にしない  
い、どうしよう内憂した  
ら、自分の気持ちにむか  
りたかった」

「これが原型となり、「教  
訓I」は誕生する。フォー  
クソング界には、高田  
たけしより出かけたが、高田  
たけしにスチーシに引られ  
出された。一夜にしてスタ  
ーの仲間入りを果たした  
が、「歌いこなされたの  
か」という感懐がなくなっ  
た。

愛をすずに歌い続けてき  
た。北海道から沖縄まで全  
国のライブハウスやホール  
を毎年巡る。そんなコンサ  
ートは年に七、八十回にも  
達する。最近は一出会  
いごとをテーマに曲を作  
る。ニューミュージックに  
なると多くなると、大  
抵のコンサーツでは「教訓  
I」も歌う。

①政治や教育、音楽など、さまざまに分科について話す歌手の加川良さん。昨年12月12日、東京都世田谷区北沢の「ラカーニヤ」で約35年前、新宿駅西口地下広場をつめた「フォークグリラ」。この曲時代の間もなく定年を迎える



でも、服従はしない

「私は政治のことなんか  
な一人にもわからない間  
です。何が美しい国や  
ら知らないし、安倍政権の  
安倍の卒つて間違え  
でも、この数年の間に日本  
は随分勇い国になっ  
たと思います。国策の愛  
国心は、そんな言葉程  
く使われをうにされた。  
あつという間にね。だ  
あ、あんな非国民の歌  
も歌った方がいのか  
と」

## それぞれを認め、愛する それが僕の「美しい国」

「教訓I」がヒットし  
た一九〇七年は、小学六  
年。まだフォークの黄金  
時代で、最初出た  
アルバムは、吉田直樹の  
「人間て」だった。  
岡林信康、高杉とやな  
と先輩のフォーク歌手  
も好きだったが、共通す  
る魅力は木太の人間さ  
だ。今でも時折、聞き  
たくなのもそんな理由  
からか。(吉)

国を造ればいいと思う  
だからお国に無体なと  
をいわれれば、ちよつと失  
礼」ととって逃げた。  
「逃げるって案外バカが  
いる。攻めより情が必  
要かもしれないよ」  
加川のいう「非国民の  
精神」とは、そういうこと  
だ。罵り合って遊らわ  
す、しかし、まっろわす  
ず。  
「ファンの中で「教訓I」  
よりも人気が高い一流行  
歌」という歌がある。  
君は君のことが好きあ  
りますまに  
僕は僕のことが好きあ  
りますまに

## テマクメ